

平成 22 年 6 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006 ～ 2009
 課題番号：18592436
 研究課題名（和文） 地域の健康課題解決に結びつく行政保健師と大学が協働する
 教育研究活動のあり方・方法
 研究課題名（英文） Solution Strategies of Collaboration between Nursing faculties and
 Public Health Nurses to Address Community Health Problems
 研究代表者
 坪内 美奈（TSUBOUCHI MINA）
 岐阜県立看護大学・看護学部・准教授
 研究者番号：70326114

研究成果の概要(和文):看護大学教員が行政保健師と協働した教育・研究活動の事例調査から、教員と保健師との協働活動のプロセス、協働活動における教員と保健師の役割および協働関係の構築の方法、保健師が認識していた課題の変化、教育（実習）環境づくりや学生の学びへの影響が確認できた。また、共同研究に取り組む行政保健師と看護系大学教員の協働についての調査から、教員と保健師と互いに利点をもたらす協働の方法を明らかにした。さらに、文献検討から、行政保健師の実践改善の方法を概説するなどした。

研究成果の概要(英文): We clarified collaboration process between nursing faculties and public health nurse(PHN), method of building collaboration partnership, the role of nursing faculties and PHN, change of community health problem which PHN perceived, the effect on student s practice environment and student s learnings. We clarified collaboration method of Utilization the merits of both PHNs and the faculty. We reviewed solution strategies for community health problems by PHN.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 18 年度	700,000	0	700,000
平成 19 年度	400,000	120,000	520,000
平成 20 年度	400,000	120,000	520,000
平成 21 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：医師薬学

科研費の分科・細目：看護学，地域・老年看護学

キーワード：地域看護学，大学教員，行政保健師，協働

1. 研究開始当初の背景

(1)看護教育・研究者と看護実践者による地域看護研究の協働の現状報告において、協働して研究を行なうための必要条件がいくつかあると報告されているが、その必要条件をどう準備し、どのように実施するかは未

だ明らかではない。

(2)看護教育・研究者が、保健師と協働して研究に取り組んだ結果、看護の質が向上したことによって地域看護実践の目標とされる地域の健康課題解決にどうつながったのか

という報告は少ない。

- (3)看護の領域では臨地実習が必要であり、現場の協力が不可欠である。教育活動における保健師との協働では、具体的には臨地実習を通しての協働となるが、それが、教員にとって、また教育環境づくりにおいてどのような意味があるのか、また適切な実習環境づくりに向けて具体的にどのように協働していくのか説明されているものはほとんどない。

2. 研究の目的

- (1)大学教員が行政保健師と協働した教育・研究活動が、どのような重なりによって展開され、どのように地域の健康課題解決に結びついているのか、そのプロセスを明らかにする。
- (2)(1)により解決に結びついた地域の健康課題とはどういうものか、研究開始の時点から、何が、どのように、どの程度課題解決が促進されたのか、その内容を明らかにする。
- (3)(1)において行政保健師と大学教員が果たしていた役割と協働の方法を明らかにする。
- (4)(1)～(3)を通して、地域の健康課題解決に結びつく教育・研究活動のあり方・方法を検討する。

3. 研究の方法

- (1)看護大学教員が行政保健師と協働した教育・研究活動の事例調査
対象：平成18～21年度、岐阜県立看護大学の実習施設であり、かつ岐阜県立看護大学の共同研究事業を通して、教員と研究的取り組みを協働で実践する2町の保健師との教育・研究活動。
調査方法：協働活動における教員の姿勢としては、保健師が地域の健康課題と認識し取り組もうとしていることに対して協働して関わる。そして、教育・研究を通じた協働活動のプロセスとそれによる変化を記述する。
- ### 分析方法
- ア. 協働活動について、どのような教育活動および研究活動が実践されたのか、プロセスを分析する。
- イ. 協働活動における教員と保健師の役割および協働関係がどのように構築されているか分析する。
- ウ. 開始時点から、保健師が課題と認識していた内容が協働活動を通して、どのように変化したかその内容を分析する。
- エ. 協働活動が教育（実習）環境づくりや学生の学びにどのように影響したかを分析する。
- (2)共同研究に取り組む行政保健師と看護系

大学教員の協働についての調査 第一段階

- ア. 対象：2004年～2006年に刊行された日本地域看護学会の学術集会誌（3冊）と日本地域看護学会誌（6冊）の中から、看護系大学教員と行政保健師が共同で報告している地域看護の55の研究課題を選び、研究メンバーである教員側、保健師側の筆頭者。条件の外れる者は除外し、最終的に調査対象となったのは42研究課題、教員延べ42名、保健師延べ49名。

イ. 調査方法：郵送調査。調査期間は2007年1月5日～2月14日。

ウ. 調査項目：教員対象の調査と保健師対象の調査の共通項目は、共同研究の実施体制、共同研究の取り組み状況の項目、共同研究のプロセスにおける大学教員と保健師との役割分担である。教員に対しては、これに加えて、共同研究と教育との関連の項目、保健師に対しては、共同研究と実践との関連の項目を設定した。

エ. 分析方法：選択式の調査項目については、項目にそって集計した。記述回答については、その意味内容により分類、整理した。

第二段階

- ア. 対象：第一段階の郵送調査回答の中から、保健師、教員共に調査の承諾の得られた3研究課題（教員3名、保健師3名）と、筆者らが把握していた教員と保健師が協働で報告した地域看護の3研究課題（教員4名、保健師6名）。

イ. 調査方法：研究者2名による個別のインタビュー調査。

ウ. 調査項目：共同研究のプロセス、実施してよかったこと、成果およびその活用等。

エ. 分析方法

各々の記録から、協働の場面・状況を抽出し、協働の行為とそれに対する教員と保健師の認識をそれぞれに整理する。そして、協働の行為と認識をあわせて協働の方法として、カテゴリ名をつけ、意味内容により分類する。また、共同研究をしたことの利点と筆者が捉えたことを記録の中から抽出し、記述の意味内容で分類する。これらから、教員、保健師にとって互いに利点をもたらす協働の方法について考察する。

(3)実践改善の方法に関する文献調査

行政保健師の実践改善の方法に関する文献調査

文献検討により、行政保健師による地域の健康課題解決に焦点をあて、行政保健師が取り組んだ地域の課題と取り組んだ理由、保健師が目指したこと、保健師が意図的に周囲を

巻き込んだ実践方法、および活動の成果を調べ、行政保健師による地域の健康課題解決のための実践方法を概説する。

看護系大学における実践・教育・研究の連携に関する文献調査

文献検討により、地域看護の分野を中心に、実践・教育・研究の重なる現状とその連携の成果について整理する。

<倫理的配慮>

研究方法(1)と(2)の研究計画は、岐阜県立看護大学研究倫理審査部会の承認を得た。

4. 研究成果

(1)看護大学教員が行政保健師と協働した教育・研究活動の事例調査

教員と保健師との協働活動のプロセス

事例 A について述べる。A 町との協働は、実習や現任教育などの従来実施されてきた取り組みを保健師と評価するところから始まった。そして、潜在したニーズを把握し早期に対応すること、そのためには保健師の力量の向上が必要であるという実践上の課題に対して、教員と保健師により、岐阜県立看護大学の共同研究事業を通して共同研究を行い、また看護学実習においても、保健師の活動の充実に寄与し、かつ学生の教育効果も高めるように、保健師と相談しながら実習内容を企画し、実施するものであった。

そのプロセスは、協働活動の計画、実施、評価、そして、計画修正、実施という循環しながら発展するサイクルですすんでいたことが確認できた。

共同研究と看護学実習の連動におけるプロセスでは、共同研究として家庭訪問の視点や地区特性の視点を検討する上で、保健師の活動を素材にするだけでなく、3 年次単独家庭訪問実習の学生のカンファレンス記録（家庭訪問結果を集約した記録）も検討材料とした。そのために、教員は保健師と、単独家庭訪問実習の対象選定やカンファレンス内容について相談した。保健師は、意図的かつ積極的に対象を選定し、実習当初のオリエンテーションにおいても、保健師の活動方針や保健師の問題意識等について熱意をもって学生に説明した。また、学生の訪問計画確認や日々・最終のカンファレンスに、前年以上に保健師の参加があるなど積極的な実習指導がなされ、実習としても充実したものになった。つまり、実習指導においても教員と保健師との協働がすすみ、実習指導体制が一層整い、学生の実習内容の充実につながるプロセスであったと考えられた。

特に、共同研究のプロセスは、研究的に取り組んだ活動内容とその結果を文章化し、そ

れを保健師等全スタッフで読み返し、住民ニーズにあったものになっているか活動を振り返り、一人ひとり気づきを述べ共有したことで、保健師の援助方法・地区活動方法の開発のヒントになり、実践の改善を図る方向性を見出すと同時に、保健師がその援助・地区活動の意味を再確認し、学びを得るプロセスであったと考えられた。

この町の保健師リーダーは、本学大学院を終了しており、活動の方向性として示されていた潜在化予防を強化した保健師活動や地区分担制、地区巡回健康相談は、大学院の実践研究において考案されたものであった。教員と保健師との協働活動は、その考案された保健師活動が目的に向かって着実に行われるための軌道修正の機会、そして、全スタッフが活動を推進していく後押し、つまり大学院修了生が目指した活動を側面的に支援したプロセスでもあったと思われた。

教員と保健師の役割および協働関係の構築の方法

教員と保健師との協働関係の構築において、下記の8つのキーとなる要素を抽出した。

「共通認識をもつこと」、「互いに利点があること」、「それぞれの立場で助力の意思をもって、具体的に協働活動の計画を立案し、実行にうつすこと」、「互いの立場で主体的に責任を果たそうとすること」、「協働した取り組みや保健師の活動の目標・結果を振り返り、活動計画を修正すること」、「保健師が取り組む活動が住民のニーズにあっているか検討すること」、「援助の意味や保健師の存在価値を認識し、互いに共有すること」、「保健師の学習の機会として組織的に取り組めるようにすること」であった。

教員と保健師との間で協働関係を構築する上では、活動のための資金、研究倫理審査での計画の承認、大学図書館の活用、公表の機会があることが協働活動の基盤として必要と考えられた。

教員の役割としては、「保健師が研究的に取り組んだ活動内容を言語化、文章化することを支援し、住民ニーズにあった活動となっているか検討することを通して、保健師が活動方法を開発しながら、実践の改善を図る方向性を見出せるようにすると同時に、その活動の意味や保健師の存在意義への学びを深められるようにして、保健師の活動の推進を後方支援する役割」、「開始、実行、評価の全ての段階において、課題解決に向けた取り組みの妥当性確保を支援する役割」、「協働の相手となる組織の人材育成体制の状況を判断し、それが整っていない場合には、人材育成

を側面的に支援する役割」、「計画の時点から研究結果を保健師、関係者、住民へフィードバックする方法を計画に組み込み、研究成果を教員と保健師間で共有し、今後の教育活動および保健師の実践に活用できるものにしていく役割」、「保健師の学びや成長にとっての観点から、また実践上の課題解決の観点から、協働での取り組みを常に評価していく役割」があると考えられた。また、事例Aを通して、今後教員に求められる役割として考えたことは、「県や保健所と協働して、研究的取り組みを通して人材育成をしていく現行教育体制の構築を支援する役割」であった。

保健師の役割としては、保健師の立場において主体的に役割を担い、保健師の取り組みの成果として、実践として改善されたことは何か、その実践は住民ニーズにどのように対応しているのか、地域にとってどのような意味や成果があったのかを整理し、住民にみえる形にして住民に発信する役割があると考えられた。

保健師が認識していた課題の変化

保健師の実践に変化があり、保健師の実践上の課題であった地域の潜在ニーズを捉え、早期に対応することにおいてどのような意味があったのか考察した。

教育（実習）環境づくりや学生の学びへの影響

実習環境（ソフトの面）の変化としては、実習の企画・調整、学生が訪問する対象の選定、学生への指導において、充実がみられた。

学生の学びの内容では、看護の基本についての学びと、個別援助と地域の特性・ニーズの明確化とを関連させた学びが確認できた。

これらから保健師の活動の充実を図るプロセスに学生実習を連動させることは、実習目標の到達に向けて学生が学びを深められるような実習の協力・支援・指導が実習施設の保健師から得られる教育効果をもたらすと考えられた。

(2)共同研究に取り組む行政保健師と看護系大学教員の協働についての調査

第一段階

教員は、研究課題21件、教員述べ21名から回答があった。（教員述べ人数における回答率50%）。保健師は、研究課題28件、保健師述べ28名から回答があった（保健師述べ人数における回答率57.1%）。

第二段階

調査対象の共同研究の方法は様々であった。共同研究をすることは、保健師と教員間において協働関係をつくりながら、保健師と教員のみにとって利点があるのではなく、住

民サービスの向上や地域の看護職への波及も含めた地域にとっての利点があり、保健師、教員、地域にとって「三方良し」の利点があることが確認できた。

共同研究の開始の段階、調査の準備・実施・分析の段階、成果の共有と公表の段階ごとに、教員と保健師それぞれにおける協働の方法が明らかになった。

(3)実践改善の方法に関する文献調査

行政保健師の実践改善の方法に関する文献調査

行政保健師による地域の健康課題の解決を図るとは、直面している課題の解決を図るだけでなく、今後も同様の課題が出現したときに解決できるように、継続して実践や体制を改善することであった。

周囲を巻き込みながら地域の健康課題解決を図る実践方法は、保健師は行政に所属する看護職として、地域の住民の健康生活に責任をもち役割を発揮する立場にあるという活動姿勢をもち、地域の健康課題に対して感度を高くして気づき、その健康課題を多角的、総合的に分析する一方で、実践上の課題など活動の基盤を分析し、取組むべき課題の優先度を見極める。関係機関や住民など様々な人と協働しながら、一方で、組織的に課題解決に取り組む。様々な人と協働する上では、協働する相手は異なっても、地域の課題・活動の目的・各々の役割を共有し、共通認識を醸成する。とりわけ、住民との協働においては、地域の実態や課題を可視化して、住民にとってわかりやすく説明することが前提である。

看護系大学における実践・教育・研究の連携に関する文献調査

実践と教育との連携に関する文献（看護学実習を通じた連携や大学院教育での授業を通じた連携、大学と臨床との連携のための体制づくり）、実践と研究との連携（研究を通じた連携、大学と臨床との連携のための体制づくり）、実践・教育・研究を推進するための連携組織に関する文献等を調べ、大学教員と保健師との協働のあり方・方法を検討するための基礎資料とした。

(4)地域の健康課題解決に結びつく看護系大学教員が行政保健師と協働する教育・研究活動のあり方・方法

全ての調査から、看護系大学教員と行政保健師が協働して行う教育・研究活動の成果について、その機能の領域と、成果が及ぶ人・場の観点から整理した。

看護系大学教員と行政保健師が協働して行う教育・研究活動は、教員にとっては、研

研究活動の発展や教育活動の充実、そのための研究資金の確保がなされ、保健師においては、妥当性のある研究的取り組みにより、実践の改善・充実・開発がすすみ、保健師の専門職としての人材育成につながる事が考えられた。そして、これらを通して、地域における住民サービスの向上や健康指標の改善につながっていると考えた。教員と保健師が協働した教育・研究活動のあり方は、地域へも波及効果があることを確信し、教員と保健師の双方に成果をもたらしていることを認識しながら、また、その成果を双方が活用できるように、活動を計画し、実行、評価、修正し、発展させていくことであると考えた。そのためには、実践、教育、研究活動を連携させていく組織や連携のための基盤（資金等）が必要である。

ユニフィケーション・モデルのような連携組織をもたない場合の大学(教員)と現場(保健師)の協働の工夫について、本研究結果から、実践上の課題と連動させて学生実習を行なう方法が確認できた。そのためには、教員は、保健師の活動方針は何か、どのように活動を推進していくか、その上で実習をどうするかを保健師と組織的に、繰り返し話し合いをしていくことが大切で、それが、実習指導にも活かされ、学生の学びの深まりや実習指導の充実などの教育効果をもたらすと考えられた。さらに、その結果を活用して、保健師の活動の検討に活用する方法も確認できた。

本研究において、教員が保健師と協働関係を構築する上での具体的なキーとなる要素を明らかにできたことから、これらの要素を大切にしながら、教育・研究活動を連動させていくことが協働の方法として考えられた。

教員の役割としては、保健師が研究的に取り組んだ活動内容・結果の言語化や文章化により、活動の振り返りを支援する役割、協働活動を具体的にすすめる中で、住民ニーズに即した援助となっているかを問う役割、

を通して、保健師としての責任を果たす活動方法の開発を導き、修正をしていくと同時に、その援助の意味や保健師の存在意義について保健師の学びを深める役割、開始、実行、評価の全ての段階において、課題解決に向けた取り組みの妥当性を保証する役割、

協働の相手となる組織の人材育成体制の状況を判断し、それが整っていない場合は、人材育成を側面的に支援する役割、計画の時点から研究結果の保健師、関係者、住民へのフィードバックの方法を計画に組み込み、研究成果を教員と保健師間で共有し、今後の

教育活動および保健師の実践に活用できるものにしていく役割、保健師の学びや成長にとっての観点から、また実践上の課題解決の観点から、協働での取り組みを常に評価していく役割、県や保健所と協働して、研究的取り組みを通して人材育成をしていく現任教育体制の構築を支援する役割があることを導いた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

坪内美奈:行政保健師による地域の健康課題の解決を図る方法に関する文献検討,千葉看護学会会誌,Vol.15, No.2, 36-45, 2009、査読有り。

坪内美奈、松下光子、森仁実、大井靖子、宮島ひとみ、山田洋子、大川眞智子、岩村龍子、北山三津子:保健師の実践上の課題と連動させて実習を行なうことの教育効果におよぼす意味,岐阜県立看護大学紀要,第10巻1号,3-11,2009、査読有り。

坪内美奈、岩村龍子、大川眞智子、行政保健師の求めるものに応じた共同研究に向けた看護系大学教員の協働のあり方と方法,岐阜県立看護大学紀要,第8巻2号,29-37,2008、査読有り

坪内美奈、大川眞智子、岩村龍子、看護系大学教員が行政保健師と行なう共同研究による協働の進め方とその意味,岐阜県立看護大学紀要,第8巻1号,25-32,2007、査読有り

[学会発表](計9件)

坪内美奈、松下光子、大井靖子、宮島ひとみ、森仁実、大川眞智子、岩村龍子、山田洋子、北山三津子:保健師の実践上の課題と連動させて行う学生実習の工夫と教員の役割,第68回日本公衆衛生学会総会抄録集,Vol.56, No.10, P594, 2009。

坪内美奈、岩村龍子、大川眞智子、松下光子、北山三津子:特定健診・特定保健指導1年目の課題明確化を図る保健師の活動と連動させて実施した実習の成果,日本地域看護学会第12回学術集会講演集, P129, 2009。

Masako Nishiwaki, Hitomi Uno, Ai Teranishi, Mariko Ogai, Mami Aichi, Sakie Mori, Miyoko Takagi, Mayuko Usui, Yuko Sakaida, Saeko Kumagai, Naomi Yonemasu, Mina Tsubouchi: Public Health Nurse Activities for Preventing People Who Are

Over-Looked In All Areas Of A Town , The 4th international conference on community health nursing research Conference handbook, P258 , 2009 .

Masako Nishiwaki, Mina Tsubouchi, Naomi Yonemasu, Hiromi Uno, Ai Teranishi, Mariko Ogai : Collaboration to Improve Public Health Nursing Practice for Developing Mutually Supportive Local Communities , The 4th international conference on community health nursing research Conference handbook ,P333 ,2009 .

坪内美奈、米増直美、松下光子、森仁実、大川眞智子、岩村龍子、北山三津子 : 保健師の実践上の課題と連動させた実習が学生の学びと実習環境に及ぼす影響 , 第 67 回日本公衆衛生学会総会抄録集 , Vol.55 , No.10 , P386 , 2008 .

坪内美奈、岩村龍子、大川眞智子、松下光子、米増直美、北山三津子 : 実践上の課題解決方法検討と連動させて実施した実習による学生の学びと実習方法の検討 , 日本地域看護学会第 11 回学術集会講演集 ,P150 ,2008 .

Mina Tsubouchi, Michiyo Imaida , Ai Sugihara : Collaboration to improve public health nursing practice for the rearing of multiple-birth children , The 1st KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing , ポスター展示 , 2007 .

坪内美奈、今井田路代、杉原愛 : 保健師と協働して行なう教育・研究活動開始時における協働関係について , 第 66 回日本公衆衛生学会総会抄録集 , Vol.54、No.10 P382 , 2007 .

坪内美奈、戸之洞愛、米増直美、松下光子 : 行政保健師と大学教員の協働活動による地域の健康課題解決明確化の現状と協働の方向性 , 日本地域看護学会第 10 回学術集会講演集 , P98,2007 .

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

[その他]

ホームページ等 : なし

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

坪内美奈 (TSUBOUCHI MINA)

岐阜県立看護大学・看護学部・准教授

研究者番号 : 70326114

(2) 研究分担者

松下光子 (MATSUSHITA MITSUKO)

岐阜県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号 : 60326113

(H18,19 H20,21 : 連携研究者)

米増直美 (YONEMASU NAOMI)

岐阜県立看護大学・看護学部・元准教授

研究者番号 : 80326115

(H18,19 H20 : 連携研究者)

森仁実 (MORI HIROMI)

岐阜県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号 : 40326111

(H18,19 H20,21 : 連携研究者)

岩村龍子 (IWAMURA RYUKO)

岐阜県立看護大学・看護学部・准教授

研究者番号 : 00326109

(H18,19 H20,21 : 連携研究者)

大川眞智子 (OKAWA MACHIKO)

岐阜県立看護大学・看護学部・准教授

研究者番号 : 10253923

(H18,19 H20,21 : 連携研究者)

北山 三津子 (KITAYAMA MITSUKO)

岐阜県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号 : 70161502

(H18,19 H20,21 : 連携研究者)

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :